

京都府商工労働観光部長と府連専務理事との懇談会

10月26日に開催

京都府商工会議所連合会と京都府商工労働観光部長との懇談会が、10月26日に舞鶴商工会議所で開催され、当所からは瀬川専務理事が出席した。

京都府からは山下商工労働観光部長、堀田京都舞鶴港振興監、田中副部長（商工担当）のほか産業労働総務課長・経営支援課長らが、また、連合会からは府内の8商工会議所の専務理事が出席した。



当所で開催された京都府商工会議所連合会専務理事会

今回の懇談会は、2部構成で行われた。

前半 「経営改善普及事業の強化に関する要望」と「各会議所からの個別要望事項」について

後半 山下部長のスピーチ「明日の京都ビジョン（次期長期ビジョン）」

「経営改善普及事業の強化」については、京都府商工会議所連合会の共通要望として、「中小・小規模事業者のセーフティネットであるこの事業の拡充・強化を図るとともに、会議所の充実・強化に向けた支援を願いたい」旨を申し入れた。京都府からは、「京都経済を支える小規模事業者等への支援対策は最重要課題であるとの認識から、しっかりと対応していきたい」との回答を得た。

また、個別要望事項については、瀬川専務理事から、①北部4市の「広域周遊観光」②景気回復に向けた公共事業の前倒し③京都舞鶴港の集荷について要望した。

①北部4市の「広域周遊観光」

- 北部4市は、それぞれ、海・山・川といった幅広い魅力あふれる素晴らしい観光資源を持っている。これらを結集させた府北部エリアの「広域周遊観光圏」を整備すれば交流人口の拡大とともに、従来の観光産業だけにとどまらない農林水産業や商工業など幅広い産業を含めた地域経済全体の活性化が計れる。
- 府北部エリアには、すでに、人が大量に移動するための公共鉄道交通網の整備が出来ている。鉄道の利用促進にもなり、これを活用しない手はない。
- KTRとJR舞鶴線を北部4市エリアの環状線と見立てて、それぞれの魅力を持った地域資源を活かした「広域周遊観光」を促進するためのソフト支援として、周游客の利便性を高め、リピーターを確保するために、いつでも、気軽に使える『周遊割引券（日・月・季節・年）』の導入を考えるのも面白い。
- 利用客のニーズを踏まえた、もう1日・もう1泊したくなる魅力ある「広域周遊観光」の取り組みは、地域活性化の一つの起爆剤になる。

②景気回復に向けた公共事業の前倒し

- 公共工事は「すべて悪」との考えを捨て、不況で、物・人手があまり、さらに金融が緩んでいる今こそ、必要かつ急ぐべき社会資本の整備は、前倒ししてでも実行すべき。
- 景気回復の最大の決め手は、内需振興に向けた景気対策であり、「緊急融資」だけでは一時しのぎで、先の展望が見えてこない。
- 民需を創出する「呼び水」として、必要とされる公共事業への財政出動をすることにより、『自律的な景気回復』を実現できるのではないかと。

③京都舞鶴港の集荷

要望というより、仲間である他の会議所専務理事に対して呼びかけた。

- 港が機能するためには、施設整備と航路の安定、運用システムの充実もさることながら、その大前提は「集荷」、まずは『港を利用する荷物を集めること』だ。
- 荷物を出す側である京都経済界においても、「荷物集め」に大きなお力を頂きたい。
- 府内会議所の会員企業の皆さんに「スーパー中樞港である神戸港・大阪港に加え、京都舞鶴港を小回りが利き、利便性が高い日本海側の拠点港の位置づけで、利用港リストに加えるよう」に働きかけて欲しい。